

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	「スイミー」の比較 : 2020年度版小学校国語科教科書相互と原典とを対象にして
Author(s)	難波, 博孝
Citation	国語教育思想研究 , 22 : 67 - 73
Issue Date	2021-05-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050899
Right	
Relation	



「スイミー」の比較

— 2020年度版小学校国語科教科書相互と原典とを対象にして—

キーワード：スイミー 教科書 絵本 比較

広島大学

難波博孝

1. はじめに

本論は、『スイミー』（1969年 好学社レオ・レオニ作谷川俊太郎訳 以下原典）と2020年度版小学校国語科教科書の教材「スイミー」（以下「スイミー」。なお主人公を指す場合は、「」なしのスイミーを使用する）の、文章と絵とを相互に比較し分析するものである。

「スイミー」は、2020年度版日本の小学校国語科教科書全てに掲載されている。このような国語科教材を共通教材ということがある。「ごんぎつね」（小学4年）や「大造じいさんとガン（がん）」（小学5年）も共通教材である。しかし、「スイミー」の場合、教科書会社によって学年が異なる。教育出版と東京書籍は1年下に、学校図書と光村図書は2年上にそれぞれ掲載されている。

学年が異なるので、漢字表記が異なるのは当然だが、その他にも教科書ごとに表記や文章そのものが異なっているところがあり、原典とも異なっているところがある。また、『スイミー』が絵本であるため、原典の絵を挿絵として各教科書会社の「スイミー」は使われているのだが、使われている絵が異なっている。これらの違いは、授業実践を行う上で見逃せない違いである。

本論では、今後「スイミー」の実践を考えるための資料提供として、原典と各教科書会社の「スイミー」の文章と絵とを比較し分析するものである。

2. 原典『スイミー』の絵と文章

表2は、原典の絵と文章を表にしたものである。原典の文章の特徴は、漢字表記がなく、スイミーと、ゼリー・ブルドーザー・ドロップなど、限られた、海底にいる生き物に言及するときのみカタカナが使われている。

また、「くらしめた」「してる」などの口語体、「!」「……」などの記号が使われているのが特徴である。

絵については、表・中表紙も含めたすべてのペ

ージにスイミーがいること、海底と赤い魚たちがいくつかの部分に描かれていること、かなりのページ数を使って、海底の生き物が描かれていることである。

表1は、原典の絵の内容を表にしたものである。黒枠はそれぞれ、Ⅰスイミーが海底に潜るまで・Ⅱ海底に潜っていったあと・Ⅲ再び赤い魚をみつけてから を表している。

表1：原典の絵の内容

ページ	内容	海底	岩の壁	スイミー	赤い魚
表表紙		○		○	○
中表紙	23と同じ	○		○	○
1	Ⅰ ひろいうみの まぐる	なし		○	○
3		なし		○	○
5	くらいうみ	なし		○	
7	くらげ	なし		○	
9	Ⅱ いせえび さかな いと	○		○	
11		○		○	
13		○		○	
15	うなぎ	○		○	
17	いそぎんちゃく	○		○	
19	みつけた1	○	○右	○	○
21	かんがえた	○	○左	○	○
23	Ⅲ もちば めに	○		○	○
25		なし		○	○
27	おいだす	なし		○	○
裏表紙		○			○
表裏		○		○	○

表1をみると、Ⅰではスイミーと赤い魚が描かれ、Ⅱでは赤い魚が消え、しだいに海底が現れ、Ⅲでは海底に海の壁が現れたところで赤い魚が現れ、海底が消えてスイミーと赤い魚だけになって、黒いさかなを追い出す、というように描かれていることがわかる。また、赤い魚とともに黒いさか

なを追い出すときは、海底は描かれていないが、表表紙と裏表紙の見開きを見てみると、スイミーと赤い魚と海底とが描かれていることもわかる。

これらのことから、海底が海の底を表すだけにとどまらず、スイミーの心の底を表現しているのかもしれない。

3. 「スイミー」相互の本文の比較

ここでは、各教科書会社の「スイミー」の本文の比較を行う。表3に掲載されているものが比較した表である。教科書会社ごとに、ページ数やページ割が違うため、大体的内容が合うように表を揃えてある。

これをみると、教科書会社ごとに「スイミー」のページ数やページ割が異なることが分かる。また、原典との違いや、教科書会社相互の違いがあることも分かる。どの会社も漢字表記に改めているが、学年や扱う時期、教材の順序が異なるので、使用漢字には異りがある。また、分かち書きはどの会社も行っている。

教育出版は、一番ページ数が多い。特に、海底の生き物とスイミーが会うところは、かなりのページ数を使っている。一方、原典が持つ口語体は全て書き改められ、「！」「……」などの記号も使われていない。

東京書籍と学校図書は、ページ数やページ割が似ている。教育出版ほどページ数は多くないが、光村図書に比べると多い。文体や表記については、東京書籍は教育出版と同様、口語体や記号が使われていない。一方で、学校図書は、口語体や記号が原典のまま使われており、原典の文体を一番残していると言える。また海底の場面では、いきものごとに行間を開ける工夫もしている。

光村図書は、すべての「スイミー」の中で一番ページ数も少なく、海底の場面のページ数も少ない。圧縮して書いている印象がある。また、口語体や記号は使われていない。もう一つ特徴的なことは、他の会社がページをまたいで一文がつながることはない一方で、光村の「スイミー」では、一文が次のページにまたがるが多く、絵本らしさは失われている。

3. 原典『スイミー』と「スイミー」の絵の比較 最後に、原典『スイミー』と「スイミー」の絵

の比較を行う。表4は、原典のどのページの絵が、各教科書の「スイミー」にどのように使われているかが示されている。

どの教科書会社もⅠとⅢにおける、原典の絵の使用のしかたはほぼ同じである。教科書会社ごとの違いはⅡの部分の違いである。

教育出版は、ⅠⅡでは原典の絵を忠実に踏まえていることが分かる。全体で69%の原典の絵を使用している。スイミーがだんだん元気になっていくきっかけとなる海底の場面(Ⅱ)は原典では多くのページ数を費やしているが教育出版はそれに沿っていると言える。

学校図書と東京書籍は、原典の絵の使用率が44%で同じである。Ⅱについては、学校図書がくらげと後半の絵を使用しているのに対し、東京書籍はくらげと前半の絵を使用している。

光村図書は、原典の絵の使用が最も少なく(38%)、Ⅱについては原典の絵を一枚しか使用していない。先程も述べたように、光村図書の「スイミー」は絵本らしさを失い、原典とは異なる独自の教材となっていると言えるかもしれない。

4. おわりに

本論は、原典と全4つの教科書会社の「スイミー」の文章と絵を比較し若干の分析を試みたものである。学年の違いだけとは言えない違いが書く教科書会社にあることがわかった。

絵本という「テキスト」をどのように教材化するかは大きな問題であり、その実践についても考えるべきことが多くある。そのことについて考えるための材料となれば幸いである。

(引用文献)

『スイミー』(1969年レオ・レオニ作谷川俊太郎訳 好学社)

「スイミー」(2020年度版小学校国語科教科書 学校図書2年上)

「スイミー」(2020年度版小学校国語科教科書 教育出版1年下)

「スイミー」(2020年度版小学校国語科教科書 東京書籍1年下)

「スイミー」(2020年度版小学校国語科教科書 光村図書2年上)

表2：原典の文章と絵

ページ	文章	絵
表表紙		海底 スイミー 赤い魚
中表紙	扉 題名作者訳者	23 と同じ
1	ひろい うみの どこかに、ちいさな さかなの きょうだいたちが、 たのしく くらした。 みんな あかいは、一びきだけは からすがいよりも まっくら、でも およぐのは だれよりも はやかった。 なまえは スイミー。	赤い魚 スイミー
3	ところが あるひ、 おそろしい まぐろが、おなか すかせて すごい はやさで、ミサイルみたいに つつこんで きた。 ひとくちで、まぐろは ちいさな あかい さかなたちを、一びき のこらず のみこんだ。 にげたのは スイミーだけ。	まぐろ 赤い魚 スイミー
5	スイミーは およいだ、くらい うみの そこを。 こわかった、さびしかった、とても かなしかった。	スイミー 深海
7	けれど うみには、すばらしい ものが いっぱい あった。 おもしろい ものを みる たびに、スイミーは、だんだん げんきを とりもどした。 にじいろの ゼリーのような くらげ……	くらげ スイミー 海藻
9	すいちゅうブルドーザーみたいな いせえび……	いせえび スイミー 海底
11	みたこともない さかなたち、みえない いとで ひっぱられてる……	さかな スイミー 海底
13	ドロップみたいな いわから はえてる、こんぶや わかめの はやし……	こんぶ スイミー 海底
15	うなぎ。かおを みる ころには、しつぽを わすれてるほど ながい……	うなぎ スイミー 海底
17	そして、かぜに ゆれる ももいろの やしのきみみたいな いそぎんちゃく。	いそぎんちゃく ひとで スイミー 海底
19	そのとき、いわかげに、スイミーは みつけた。スイミーのと そっくりの、ちいさな さかなの きょうだいたち。 スイミーは いった。 「でて こいよ、みんなで あそぼう。おもしろい ものが いっぱいだよ！」 「だめだよ。」ちいさな あかい さかなたちは こたえた。 「おおきな さかなに、たべられて しまうよ。」 「だけど、いつまでも そこに じっと してる わけには いかないよ。なんとか かんがえなくちゃ。」	スイミー 赤い魚 岩 海底
21	スイミーは かんがえた。いろいろ かんがえた。うんと かんがえた。 それから とつぜん スイミーは さげんだ。「そうだ！」 「みんな いっしょに およぐんだ。うみで いちばん おおきな さかなの ふりして。」	スイミー 赤い魚 岩 海底
23	スイミーは おしえた。 けっして はなればなれに ならない こと。みんな もちばを まもる こと。	スイミー 赤い魚 海底
25	みんなが、一びきの おおきな さかなみたいに およげるようになった とき、スイミーは いった。「ぼくが、めに なるう。」	スイミー 赤い魚 黒い魚 の尾
27	あさの つめたい みずの なかを、ひるの かがやく ひかりの なかを、みんなは およぎ、 おおきな さかなを おいだした。	スイミー 赤い魚 黒い魚 の尾2つ
裏表紙		海底 赤い魚 わかめ
表紙見 開き		海底 スイミー赤い魚 わ かめ

表4：原典と教科書の絵の比較

	原典のページ	教育出版	学校図書	東京書籍	光村図書
		1年下	2年上	1年下	2年上
	表表紙				
扉	中表紙 (23 と同じ)	7中		1右	表表紙
Ⅰ海底に 潜るまで	1	1右	1	1右	1右
	3	3	3	3	3
Ⅱ海底へ	5	5		5	
	7	7右	7右	7右	7
	9	9左		9	
	11				
	13	13左	13左		
	15	15	15		
	17	17右			
Ⅲ追い出 すまで	19	19左	19左	19	19左
	21				
	23				
	25	25	25	25	25
	27				
	裏表紙				
使われて いる絵の 種類	16 (表裏表紙は 2つと数え る)	11 (69%)	7 (44%)	7 (44%)	6 (38%)

表2：教科書相互の本文の比較

教育出版	東京書籍	学校図書	光村図書
<p>題名作者記者 ひろい うみの どこかに、小さな さかなの きょうだいが たちが たのしく くらして いた。 みんな 赤いのに、一ひきだけ は からす貝よりも まっ くら。およぐのは、だれよりも はやかった。 名前 は スイミー。</p>	<p>題名作者記者 ひろい うみの どこかに、小さな さかなの きょうだ いたが たのしく くらして いた。 みんな 赤いのに、一ひきだけ は からす貝よりも まっ くら。およぐのは、だれよりも はやかった。 名まえ は スイミー。</p>	<p>題名作者記者 ひろい うみの どこかに、小さな さかなの きょうだいが たちが、たのしく くらして た。 みんな 赤いのに、一ひきだけ は からす貝よりも まっ くら。でも およぐのは、だれよりも はやかった。 名前 は スイミー。</p>	<p>題名作者記者 広い 海の どこかに、小さな 魚の きょうだいが たのしく くらして いた。 みんな 赤いのに、一ひきだけ は からす貝よりも まっ くら。およぐのは、だれよりも はやかった。 名前 は スイミー。</p>
<p>ある 日、おそろしい まぐろが、おなかを すかせて す こい はやきで、ミサイルみたいに つっこんで き た。 一口で、まぐろは、小さな 赤い さかなたちを、一ひき のこらず のみこんだ。</p>	<p>ある 日、おそろしい まぐろが、おなかを すかせて、 すこい はやきで ミサイルみたいに つっこんで き た。 一口で、まぐろは、小さな 赤い さかなたちを、一ひき のこらず のみこんだ。</p>	<p>ところがある 日、おそろしい まぐろが、おなか すか せて すこい はやきで、ミサイルみたいに つっこんで き た。 一口で、まぐろは、小さな 赤い 魚たちを、一ひき の こらず のみこんだ。 にげたのは スイミーだけ。</p>	<p>ある 日、おそろしい まぐろが、おなかを すかせて、す こい はやきで ミサイルみたいに つっこんで き た。 一口で、まぐろは、小さな 赤い 魚たちを、一ひき の こらず のみこんだ。 にげたのは スイミーだけ。 スイミーは、およいだ、くらい うみの そこを、こわかつた。 さびしかつた。とても かなしかつた。</p>
<p>スイミーは およいだ、くらい うみの そこを、 こわかつた、さびしかつた。とても かなしかつた。 けれど、うみには、すばらしい ものが いっぱい あつ た。 おもしろい ものを見る たびに、スイミーは、だんだん げんきを とりもどした。 にじいろの ゼリーのよう な くらげ。</p>	<p>スイミーは およいだ、くらい うみの そこを、 こわかつた。さびしかつた。とても かなしかつた。 けれど、うみには、すばらしい ものが いっぱい あつ た。 おもしろい ものを見る たびに、スイミーは、だんだん げんきを とりもどした。</p>	<p>スイミーは およいだ、くらい うみの そこを、こわかつた、 さびしかつた。とても かなしかつた。 けれど、うみには、すばらしい ものが いっぱい あつた。 おもしろい ものを見る たびに、スイミーは、だんだん げんきを とりもどした。</p>	<p>一口で、まぐろは、小さな 赤い 魚たちを、一ひき の こらず のみこんだ。 にげたのは スイミーだけ。 スイミーは およいだ、くらい 海の そこを、こわかつた。 さびしかつた。とても かなしかつた。 けれど、海には、すばらしい ものが いっぱい あつた。 おもしろい ものを見る たびに、スイミーは、だんだん げんきを とりもどした。 にじいろの ゼリーのよう な くらげ。</p>

<p>スイミーは いった。 「出て こいよ、みんなであそぼう。おもしろいものが いっぱいだよ。」 小さな 魚、さかめたちは こたえた。 「だめだよ、大きな さかめに、たべられて しまうよ。」 「だけど、いつまでも、そこに じっと して いる わけ には いやだよ、なんとか カルがえなくちゃ。」 スイミーは カルがえたい いろいろ カルがえた、うんと か んがえた。</p>	<p>スイミーは いった。 「出て こいよ、みんなであそぼう。おもしろいものが いっぱいだよ。」 小さな 魚、さかめたちは こたえた。 「だめだよ、大きな さかめに、たべられて しまうよ。」 「だけど、いつまでも、そこに じっと して いる わけには いやだよ、なんとか カルがえなくちゃ。」 スイミーは カルがえた、いろいろ カルがえた、うん と カルがえた。</p>	<p>いかにいよ、なんとか、^{「驚」}えなくちゃ。」 スイミーは 考えた、いろいろ 考えた、うんと 考えた。 それから とつぜん スイミーは、さげんだ。 「そうだ！」 「みんな、いっしょに およぐんだ、うみで いちばん、大き な 魚の ふりして！」 スイミーは 教えた。 けっして はなればなれに ならない こと。</p>	<p>小さな 魚の きょうだたちを。 スイミーは 言った。 「出て こいよ、みんなであそぼう。おもしろい、ものが い っぱいだよ。」 小さな 魚、魚たちは こたえた。 「だめだよ、大きな 魚に、たべられて しまうよ。」 「だけど、いつまでも、そこに じっと して いる わけ には いやだよ、なんとか カルがえなくちゃ。」 スイミーは カルがえた、いろいろ カルがえた、うんと か んがえた。</p>
<p>それから とつぜん スイミーは、さげんだ。 「そうだ。 みんな、いっしょに およぐんだ。 うみで いちばん、大きな さかめの ふりを して。」 スイミーは おしえた。 けっして はなればなれに ならない こと、みんな、もち はを まもる こと。</p>	<p>それから、とつぜん スイミーは、さげんだ。 「そうだ、みんな、いっしょに およぐんだ、うみで、いちば ん、大きな さかめの ふりを して。」 スイミーは おしえた。 けっして はなればなれに なら ない こと、みんな、もちばを まもる こと。</p>	<p>みんな、もちばを まもる こと。 みんなが、一ひきの 大きな 魚みたいに およげるよう になった とき、スイミーは、いった。 「ぼくが、目に ならう。」 あさの つめたい 水の中を、ひるの カガヤク ひかり の中を、みんなは、およぎ、大きな 魚をおいだした。</p>	<p>それから、とつぜん、スイミーは、さげんだ。 「そうだ、みんな、いっしょに およぐんだ、海で、いちばん 大きな 魚の ふりを して。」 スイミーは 教えた。 けっして、はなればなれに ならない こと、みんな、もちばを まもる こと、みんなが、一ひきの 大きな</p>
<p>みんなが、一ひきの 大きな さかめみたいに およげるよ うに なった とき、スイミーは いった。 「ぼくが、目に ならう。」 あさの つめたい 水の中を、ひるの カガヤク ひかり の中を、みんなは、およぎ、大きな さかめをおいだした。</p>	<p>みんなが、一ひきの 大きな さかめみたいに およげるよ うに なった とき、スイミーは いった。 「ぼくが、目に ならう。」 あさの つめたい 水の中を、ひるの カガヤク ひかり の中を、みんなは、およぎ、大きな さかめをおいだした。</p>	<p>魚みたいに およげるように なった とき、スイミーは 言 った。 「ぼくが、目に ならう。」 あさの つめたい 水の中を、ひるの カガヤク 光の 中を、みんなは、およぎ、大きな 魚をおいだした。</p>	<p>魚みたいに およげるように なった とき、スイミーは 言 った。 「ぼくが、目に ならう。」 あさの つめたい 水の中を、ひるの カガヤク 光の 中を、みんなは、およぎ、大きな 魚をおいだした。</p>